



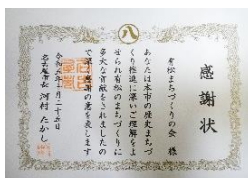
有松まちづくりの会役員会 (10月23日)

有松まちづくりの会の50周年を記念して、有松の3つの宝「絞り・町並み・まつり」の内、町並みについてを会員や地域の方、他地域の方々と考え、未来に繋ぐ一助とすることが提案され、勉強会や、町並み案内の実施等、取り組みについての様々な意見が出されました。28日に実施される緑区区民まつりでは、日本遺産有松のパネル展示やお日様染めの絞り染め体験コーナーを設けて、有松を緑区民に向けてPRすることとしました。第46回全国町並みゼミ「小樽大会」についての報告が久野副会長からなされました。

服部 豊顧問並びに (10月25日) 有松まちづくりの会へ市長感謝状

有松まちづくりの会結成50年の節目の今年、名古屋市より有松のまちづくりに多大な貢献をされたとして、河村市長から服部豊顧問と中濱豊会長に感謝状が贈られました。

参列者一同で記念写真を撮った後、懇談。市長と服部氏は重伝建選定に向け長年に渡る親交があり、終始和やかな雰囲気では進行しました。竹田嘉兵衛顧問と藤枝静次参与も同席され、日本遺産認定での苦労話も話題になりました。



絞と瓦 灯りストリートin有松 (10月14日～29日)

14日16時”灯りのオブジェ”に明かりが灯った。山与遊歩道沿いに20基程設置され、道行く人の足元を照らしている。開幕のこの日は夕方から雨。人出はまばらだが、街路樹の柳と相まって幻想的な雰囲気を漂わせている。29日までの16日間開催。

”灯りのオブジェ”は鬼師が制作した角柱の筒に染色家による絞作品が組み合わされている。2つの異なる伝統技術がコラボした作品には1つとして同じものはない。有松の夜を彩るこの姿を多くの方に見ていただきたい。



津島祭送り (9月30日)

18時から天満社社殿で成海神社の神主(亀垣禰宜)によりお祓い・祝詞奏上が行われ、続いて総代長はじめ参列者8名が玉串を捧げた。今年は津島社社殿を奉納された六三四会の方2名も参列。神事は20分で終了。前もって津島社から天満社社殿に収められたお札は精抜きされ、年明けの左義長で燃やされるとのこと。「本来お札は津島神社(津島市)に返すべきだが、この辺りではこのようにしている」(亀垣談)とのことでした。



有松天満杜秋季大祭 特集

○ 日中の様子

4年ぶりの本格的開催を待ち望んでいた今年の山車まつりは、前夜からの雨が上がり切らず日中は中止。時折ぱらつく程度の雨なので、有松に足を向けた方も結構いました。絞会館や飲食コーナーには沢山のお客さん。

建物公開している岡家住宅には350人以上の入場。あないびと会の町並みツアーにも45人の参加がありました。



絞会館(左)や飲食コーナー(右)の様子



町並みツアー風景

側溝にコーン

今年のまつりでは側溝に赤のカラーコーンが置かれ、安全対策が徹底されていました。



● 夜の様子

夜まつりは4年ぶりの実施。日中が中止ということもあり、過去に見られぬ程の人出でした。15時近くから東海道は通行止め。各山車共提灯を吊り下げるなど準備に忙しい。

18時、例年と異なり各町ごとに囃し込み始まる。西町は「夜しかできないけど楽しもう」の声で開始。日が落ちると幻想的な光景が現れました。中川橋付近から東町・中町・西町の順で提灯を付けた山車が東に向かって出発。山車を曳く人も見物する人もとにかく大人数。

途中絞会館前で布袋車と唐子車がからくり演技披露。終了後手拭いが観客に向かって投げられた。さらに東に進み、松の根橋で車切り。各町15分だが圧巻の光景である。

休憩を挟んで西に向かう。町境で別れの儀を行い、21時に祇園寺に到着。総納めの儀を経て長い一日が終わった。皆、まつりができた満足感に満ちていた。

夜の曳行の様子 ⇒



囃子込み(西町) 提灯取り付け(東町)



からくり演技・車切り(中町)



別れの儀



見学の人 いっぱい

山車を曳く人も見学する人もいっぱいでした。竹田家では格子が外され、室内にはテーブルと椅子が用意されていました。腰掛けてゆったりと山車が眺められるように、とのことでしょうか。まるで観覧席にいるような気分。今後、増加が見込まれる外国人にも優しい席のようです。



名鉄 秋の有松めぐり を覗いてみました

■ 岡家住宅 深掘りツアー

(10月7日～12月2日の毎土曜日、13時開催)

名古屋市有形文化財の岡家住宅は毎週土・日曜日の10時30分から15時30分まで公開されています。通常の見学は土間からのみですが、この度、岡家を"深掘り"して違う視点でお客様に見学して貰うツアーを有松あないびとの会が企画しました。担当あないびとの案内で、上得意様のみが許された西門から入り、庭から「古道・長坂道」通称「5番蔵小路」を見学。座敷に上がっては金庫や聯(れん)、欄間のコウモリの絵などをじっくりと眺め、天窗の部屋を真下から見上げたのち、明治期に建て増しの新座敷にて歓談。有松ゆかりのお茶とお菓子のサービスに、浮世絵スタンプも楽しめる盛りだくさんの1時間。皆さん、あないびとに色々質問もされていました。(参加費500円、当日受付のみ)



裏庭での土蔵見学



新座敷での見学風景

■ 有松しぼり体験きっぷ (10月1日～12月3日) 体験会場: 絞会館・工房ゆたはや・早恒染色

見学した14日の会場は絞会館。久野染工場の伊藤さんが講師でした。参加者は3組7人で子どもから外国の方まで様々。作業手順の確認後、体験開始。雪花絞りなど、どの技法でやるのか、見本をたくさん示しての説明は分かりやすい。私語もなく一心不乱に制作。折り目はアイロンをかけたよう。迷って色選びをし、染液に浸すが、時間が長くと手が震えてくる。水洗いの後、柄が現れると参加者の表情はそれぞれで、喜びの歓声やちょっぴり落胆の表情も…。でも充実した様子が伝わってきた。工房ゆたはたや(木曜日)・早恒染色(月曜日)でも実施。



プロギングツアーin有松・桶狭間 (10月21日)

プロギングとは、ゴミ拾いとジョギングを合わせたスウェーデン発のフィットネス。9月に「なごや環境3R (リデュース・リユース・リサイクル) 大使」に任命されたグランパス君の激励を受けた50名の参加者は、ありまつ公園を出発し、体力別に3チームに分かれて2～4kmをプロギング。特別企画として、途中、有松あないびとの会と桶狭間古戦場保存会による町のガイドも行われました。井桁屋さんの前での集合写真に納まる顔は達成感に溢れていました。



豊田信行切り絵展 開催中 (10月1日～11月30日) 於: 有松郵便局

有松まちづくりの会の会員で、切り絵作家の豊田信行さんの切り絵展「有松の風景」を郵便局ロビーで開催。今回は長坂道・カフェ&バル庄九郎・天満社・小天狗・鍾馗さまの新作5点を含む19点ほど展示。町並みの見慣れた風景の1コマが豊田さんの切り絵作品となると温かな空間に生まれ変わって見えるから不思議です。平日のみ9時から17時まで見学可。



有松には芸術がよく似合う③

第2回 絞り・藍染WORK SHOP生 作品展 (9月29日～10月1日)

昨年から作家早川嘉英氏の下、7か月間有松絞の基本技法を学んだ受講生の卒業制作展。3人の作品 タペストリーが2点ずつ展示されていました。「未熟な作品ですが、皆さんの励ましの言葉に制作への意欲を駆り立てられます」と。嵐絞りや藍染(灰汁発酵建て)の難しさとともに、更なる制作への思いを語っていただきました。会場は棚橋家住宅。

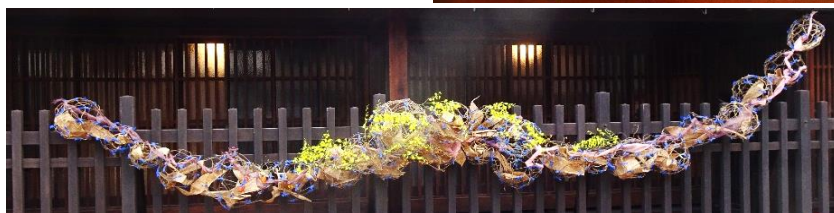


いけばなスペース花展 (9月30日～10月2日)

「誰にも開かれたいけばなに関する情報提供と交流・いけばな理解を深める場」として、流派を超えた会員で発足。有松の町並み保存地区で毎年花展を開催され、今回は結成15周年の記念す 合作「玉つなぎ2023」(棚橋邸)↓ べき回であるとのこと。



東海道沿いや竹田邸などに合作や個人作品が数多く展示されていた。竹田邸三番蔵では代表の広瀬典丈氏の展示作品紹介もあった。



鼓光流木版絵師 本多良介 作品展 (10月1日～23日)

"六弦とコットン"に有松などを題材にした興味深い作品が8点展示されていた。右の作品のように魚眼レンズで覗いたような風景が色鮮やかに描かれている。版画であるが"木版絵"と称す。木版絵の正面は井桁屋の蔵だと気づいた。 「有松絞祭り180度散策」→



伝統工芸ワークショップ2023 (10月7日～9日)

川村家西蔵での金継ぎのワークショップを見学。金継ぎとは、割れた陶磁器を接着し継いだ部分を金粉で装飾しながら修復する技法。修復というより器に新たな美を与えている。写真は接着の漆の代わりに合成樹脂を紙やすりで削っているところ。



催事・行事予定

- 11月3日(金・祝)・19日(日) 親子で学べる有松絞り伝統文化教室 コンソーシアム有松
- 11月4日(土) あいちのたてもの博覧会:建物公開日 棚橋家住宅・中濱家住宅 (見学要予約)
- 11月5日(日) 10:00 アリマツマーケット 有松天満社一帯
- 11月12日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 11月20日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン
- 11月22日(水)23日(木・祝) 10:00 有松コミセンまつり コミセン
- 11月25日(土)26日(日) 11:00 ふらんすぱんの市 有松天満社一帯
- 11月27日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp ※取材・撮影 伊藤総俊

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

